

第 3 章

アナログ回路図の描き方の作法

本章では、アナログ回路の回路図を描くときのコモン・センスを紹介します。

〈編集部〉

● 基板上での部品配置がイメージできるように描く

回路図が読みにくくなることもあるため、ケース・バイ・ケースですが、図1のように物理的な部品配置や接続方法が明確になるよう描くことがあります。

図1の描き方をすると、 C_1 と C_2 のグラウンド側を接続後、中間点付近をベタ・グラウンドに落とす、という回路設計者の意思がアートワーク(プリント基板設計)の担当者に伝わりやすくなります。

● グラウンド(ネット)を描き分ける

アナログ・グラウンドやデジタル・グラウンドを分けてプリント基板を設計する場合は、図2のようにそれぞれのグラウンドに異なるネット名を付けます。グラウンド記号を変えて描くこともあります。

● グラウンド記号を効果的に使う

図3(p.42)は、やみくもにグラウンド記号を使わず、一部分のみグラウンド記号を使った回路の例です。

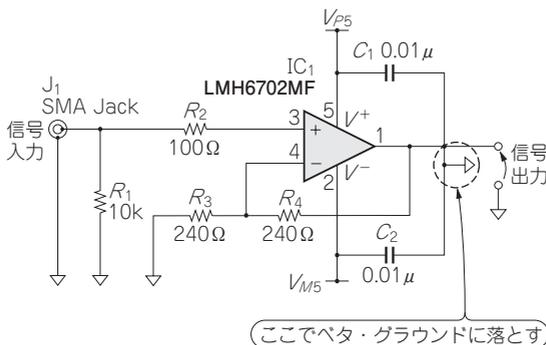


図1 回路図の作法…物理的な部品配置がわかるように描く

設計意図を伝わりやすくする工夫。やりすぎると回路図が見にくくなるのでほどほどに